
作る明日

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作る明日

【Nコード】

N2448T

【作者名】

RAN

【あらすじ】

厩戸皇子と推古天皇。

何となくいいコンビなイメージ。

サイト、dノベ転載

「失礼します」

推古女帝の部屋の前で響く声。

そして、次には襖が開かれる。

そんな風にして入ってくる者は数少ない。

そして、その声、自分と似た匂い、すぐに誰かわかる。

「何だ、厩戸」

自分の甥である皇子を見る。

「今度の計画について、拝見していただきたく参上しました」

そう言つて、厩戸は女帝の前に木簡を差し出す。

女帝はその木簡を手に取る。

だが、眺める前に口を開いた。

「わざわざ見せなくとも、お前に任せているのだから、反対するはずなかるう」

淡く笑い、手にした木簡を厩戸に向けて返した。

「それでも、御目にお通ししなければならぬのです」

「全く、面倒な世の中だよ」

「そうは言いますが、やはり大王に見ていただきたく思います。

大王は、女人ながらに男子も一目置くほどの知性を持っていらつしやいますので」

厩戸の言葉は丁寧だが、やはり血縁の親しみがどこから漏れている。

だからこそ、女帝も姿勢を崩す。

今この部屋には二人しかいないから。

「よく言うものだよ。お前なら大丈夫だ。信用している」

厩戸は頭を深く下げ、礼をする。

「有り難きお言葉です」

そこで、女帝の目が急に悲しげに揺れた。

「……なあ、厩戸……」

「はい」

厩戸は顔を上げた。女帝の揺れる目を認め、その顔も強張る。

「この国の明日が、お前には見えるか」

「……………」

女帝の重い声音に、厩戸は一瞬を声を詰まらる。

だが、すぐにその口に笑みを浮かべ、女帝を見た。

「……明日は、私が必ず作ってみせます」

女帝は、その言葉に一瞬驚いた顔をしたが、すぐに笑みを浮かべた。

今日見た中で、一番輝かしい笑みだった。

それはまるで、天照神が笑んだような。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2448t/>

作る明日

2011年5月31日12時36分発行